

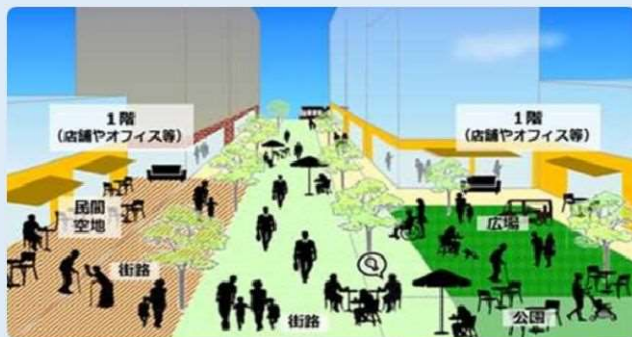
# 參考資料

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

### ■ウォーカーブル

「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年法律43号）」により、市町村が、まちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組をまちづくり計画に位置づけることができるとされました。



#### <参考>

- ※都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年）
- ※まちなかウォーカーブル推進事業（令和2年度創設）

### ■アフターコロナ

新型コロナ危機の影響で、いわゆる「三つの密」を回避することが必要とされる中、満員電車や、都心オフィスなど「都市の過密」という課題が改めて顕在化、これまでの都市における働き方や住まい方を問い直すことが求められています。

テレワークの導入促進や居心地の良い都市空間づくりが進められています。

#### <参考>

- ※アフターコロナ時代における地域活性化と観光産業に関する検討会

### ■グリーンインフラ

国土交通省は、令和5（2023）年5月に「グリーンインフラ推進戦略2023」を策定し、「ネイチャーポジティブ」などの世界的な潮流も踏まえながら、自然環境の持つ力を防災・減災に生かすグリーンインフラによる対策を推進することとしています。



#### <参考>

- ※グリーンインフラ推進戦略2023（令和5（2023）年5月）
- ※生物多様性国家戦略2023-2030における基本戦略2「自然を活用した社会課題の解決」国土形成計画（平成27（2015）年8月閣議決定）

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

### ■インバウンド

平成15（2003）年に、訪日旅行の飛躍的拡大のための国を挙げた戦略的な取組みとして「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が開始されています。

平成18（2006）年には、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進すること等を目的とした「観光立国推進基本法」が制定され、観光は21世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけられました。

#### <参考>

- ※ 観光立国推進基本法（平成18（2006））
- ※ 明日の日本を支える観光ビジョン（平成28（2016）年）
- ※ 第4次観光立国推進基本計画（令和5（2023）・閣議決定）

### ■ウェルビーイング

日本では、政府が「経済財政運営と改革の基本方針2022」（令和4（2022）年・閣議決定）において「各政策分野におけるKPI」へのWell-being指標の導入を進める」として、従来のGDPなどの客観指標に加えて、ウェルビーイングに関する主観指標を取り込んだ政策の立案や評価を進められています。

国民の幸福度・生活の質向上を政策目標に設定し、主観的指標も含む政策評価を実施しています。

#### <参考>

- ※ 経済財政運営と改革の基本方針2022（骨太方針2022）
- ※ 満足度・生活の質に関する調査Well-beingに関する関係府省庁連絡会議（令和3（2021）年7月設置）
- ※ 地域幸福度（Well-Being）指標（デジタル庁）

### ■官民連携

公共サービスの効率化・高度化を図るため、民間の資金、経営能力、技術的能力を活用し、官民が連携して公共サービスを提供する仕組みの構築を推進している。

PPP（公民連携）/PFI（民間資金等活用事業）の推進が図られています。



#### <参考>

- ※ PFI法（平成11（1999）年制定、平成29（2017）年改正等）
- ※ PPP/PFI推進アクションプラン

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

### ■DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

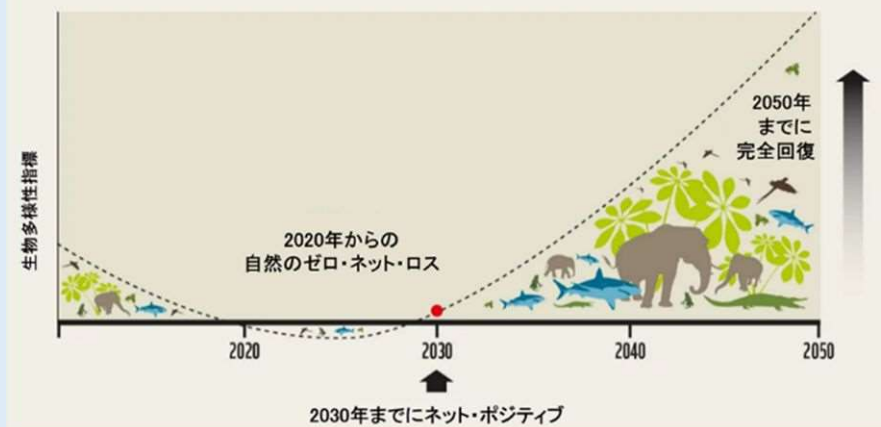
令和2(2020)年12月、政府において「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」が決定されました。

企業の競争力維持・強化のため、デジタル技術を使って新たなビジネスモデルを展開し、ビジネス変革を促進する取組が進められています。

### ■ネイチャーポジティブ

令和4(2022)年12月に開催されたCOP15において、平成22(2010)年に採択された愛知目標の後継となる、2030年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、令和12(2030)年ミッションとして「生物多様性の損失を止め反転させる」すなわち「ネイチャーポジティブ」が掲げられました。

### 自然のための世界目標:2030年までのネイチャーポジティブ



#### <参考>

※デジタル社会の実現に向けた重点計画(令和7(2025)年・閣議決定)

※デジタルガバナンス・コード2.0など、Society 5.0実現に向けた改革政府情報システム最適化計画データ利活用推進基本計画

#### <参考>

※生物多様性国家戦略2023-2030(令和5(2023)年・閣議決定)

※ネイチャーポジティブ経済移行戦略(環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (2) これまでの主な取り組み

### ①道路・公園等、公共空間の有効活用の取り組み

#### ■川崎駅周辺での道路・公園等の活用の推進

川崎駅周辺では、立地特性を活かし、広場・道路・緑地などの公共空間を活用した地域の活性化やまちの賑わい創出・魅力向上のため、事業者や地域コミュニティと連携したイベントの実施など、さまざまな取組を進めています。

<みんなの川崎祭>



[川崎市資料]

<稲毛公園>



[川崎市資料]

<多摩川見晴らし公園>



[川崎市資料]

#### ■居心地のよい公共空間の整備

川崎駅周辺では、公共空間等を活用した賑わいづくりや回遊性の向上に向けた取組を推進しています。コロナ以降の働き方の多様化等の変化により、公共空間に求められるものも変化している機会を捉え、「長時間の滞留を支える高質な屋外空間づくり」に向けた取組を実施しました。

<京急川崎駅前道路社会実験>



[川崎市資料]

<稲毛公園リニューアル>



[出典:parkERs]

#### ■「まち」と「かわ」を賑わいでつなぐイベント「DISCOVER KAWASAKI 2024」

「えき・まち・みち・かわが一体となった新しい文化発信」に向け、官民一体で公共空間等を活用した賑わいづくりや回遊性の向上に向けた取組を実施し、さまざまな人の滞留を生み、多様な交流を創出しました。

<連携イメージ>



[川崎市資料]

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (2) これまでの主な取り組み

### ②川崎駅周辺のまちづくり

開発等によって整備されたオープンスペースを活用し、地域や周辺企業等と連携した賑わいづくりを行っています。

#### ■「さいわいにぎわいフェス」

川崎駅西口周辺の企業や団体、幸区役所が協働し、地域を盛り上げるイベント「さいわいにぎわいフェス」が開催されました。

西口の開発によって整備されたオープンスペースを利用し、西口の魅力を盛り込んだ誰もが楽しめるさまざまなコンテンツで、地域を盛り上げました。



[川崎市資料]

#### ■「水曜ナイトライブ in LAZONA」

川崎駅西口に立地する商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」のルーファ広場で、音楽を通じた交流や賑わいづくり、新たなマーケットの創出等を目指して、地域と連携した音楽ライブや物販などを行うイベントを継続的に実施しています。



[川崎市資料]

# 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

## (2) これまでの主な取り組み

### ③地域資源を活かしたまちづくり

「ここには宿場があった」ということを「川崎の魅力」として再認識し、これまでの取組やイベント、街なみづくりなどを発展させ、川崎宿とその周辺の価値の向上を図り、訪れる人を増やしていくことで住む人の更なる愛着と誇りの醸成を目指しています。

#### ■地域資源「東海道・川崎宿」を活かしたまちづくり

東海道川崎宿の誕生から400年目に当たる令和5（2023）年に向けて、東海道沿いの街路灯へのフラッグや史跡案内板、浮世絵マンホールの設置などの景観づくりのほか、「東海道川崎宿場まつり」やウォークイベント、川崎宿が発祥と言われている「三角おむすび」を活かした取組など、地域住民との協働によるまちづくりを進めています。

令和5（2024）年度以降は、地域の魅力を創造・発信するネットワークの継続・発展、担い手たちが引き続き活躍できる場の形成を図ることで、市民主体のまちづくりを進め、次世代への継承を推進しています。



[東海道川崎宿HP、川崎市資料]

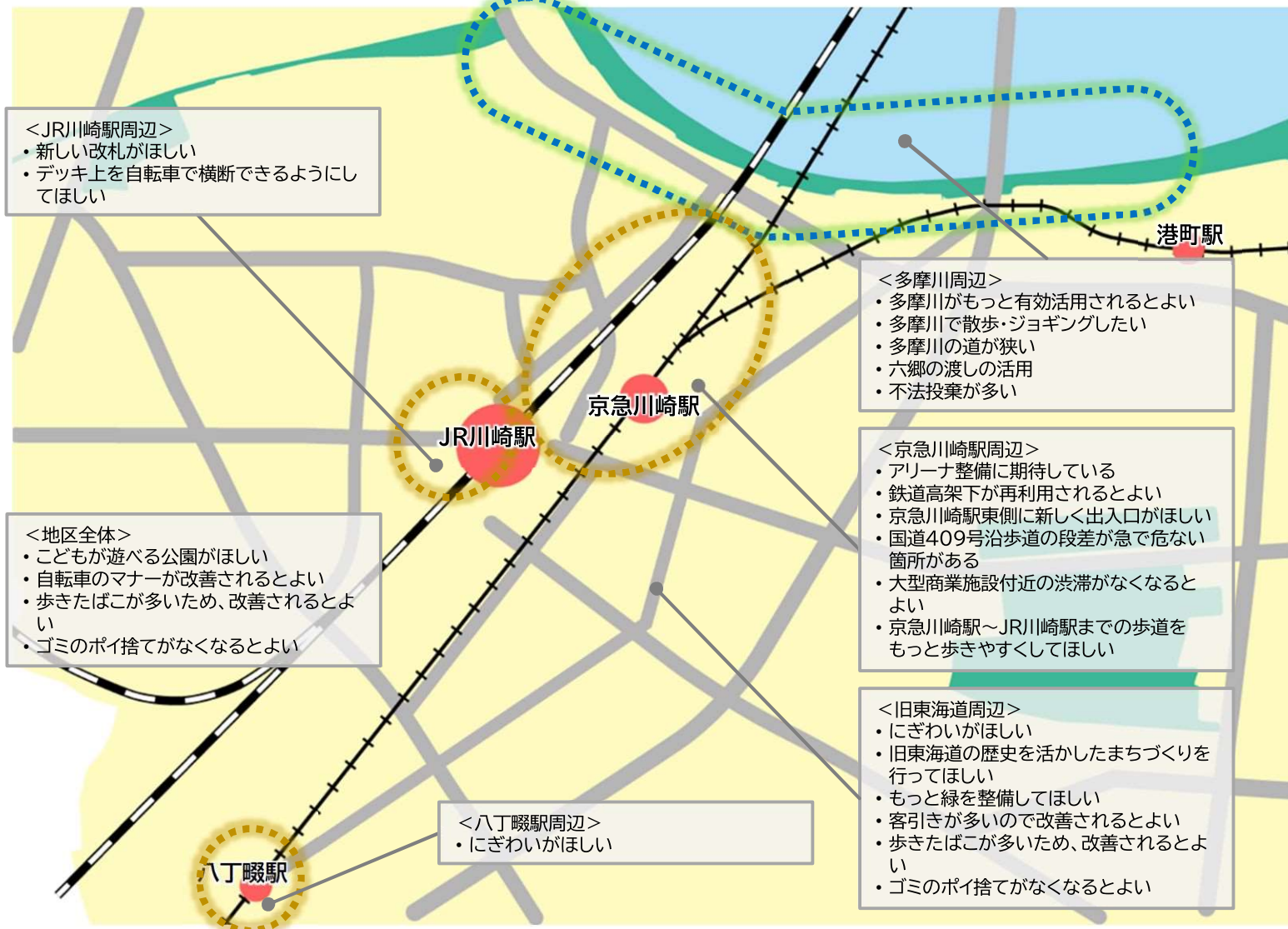
# 参考2 市民意見等の把握

## (1) 市民意見等の把握

みんなの川崎祭・水曜ナイトライブでの自由意見募集でご回答いただいた意見を取りまとめました。

### 【調査方法】

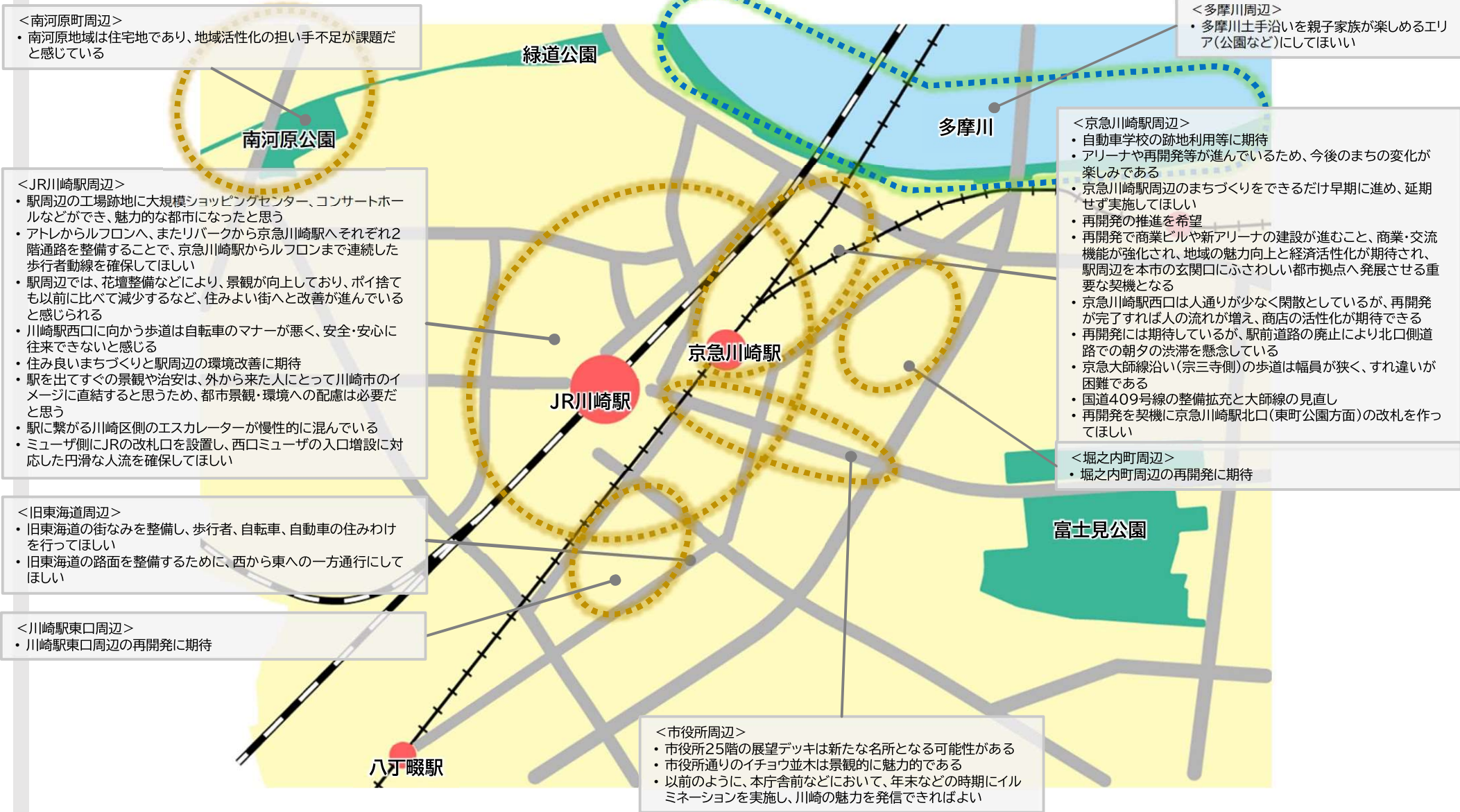
川崎駅周辺において、「もっとまちがこうなったら良いと思う場所」に自由にふせんを貼ってもらいました。



# 参考2 市民意見等の把握

## (2) 市民意見等の把握 (1/2)

川崎駅周辺の町内会・自治会、商業関係団体等へのアンケート調査でご回答いただいた自由意見をとりまとめました。



# 参考2 市民意見等の把握

## (2) 市民意見等の把握 (2/2)

川崎駅周辺の町内会・自治会、商業関係団体等へのアンケート調査でご回答いただいた自由意見をとりまとめました。

### <地区全体> (再整備)

- 川崎駅は、品川駅・横浜駅の中間に位置し通過点との印象があるため、再整備により「川崎目的」の来訪者増加と魅力向上を期待したい
- 川崎市の都市機能、特に宿泊機能が充実すれば、インバウンドを含む来街者が増加し、近隣商業施設等の来館者増も期待できる
- 「また訪れたい」と思われるまちを実現するため、事業者の意見を反映し、地権者等と連携した一体的なまちづくりを進めることが重要である
- 衛生面や生活のしやすさ、利便性の向上を図り、知的で上品なイメージを備えた川崎を目指してほしい

### (にぎわい)

- 川崎駅周辺で沢山のイベントが行われ、川崎のまちがにぎやかになるとよい
- 現在、川崎は商圏が狭いが、まちのにぎわい創出と交通便利性の向上により、周辺居住者の利便性向上と川崎駅周辺への来訪機会増加が期待できる
- 道路を車両専用とせず住民・歩行者にも一部開放することで、地域の利用価値を高め、インバウンドを含む賑わいの創出につながる
- 来訪者が目的地へ円滑に移動できる交通インフラの整備と、地域事業者の参加による魅力発信・にぎわい創出が重要である
- まちのにぎわいが高まれば、川崎への消費が増え、よりよい市につながると考える

### (回遊性)

- 回遊性を高めるアートやイベント等の創出により来街者が増加し、近隣商業施設等への来館者増も期待できる
- 駅周辺の回遊性向上に向け、交差点ごとに分かりやすい標識を段階的に整備するなど、市外からの来訪者も安心して歩けるまちづくりを行ってほしい

### (交通)

- 幸区から本庁舎・税務署・市立病院・カルッツ等へは、バスと駅構内の徒歩移動を併し、高齢者には不便なため、より効率的で利用しやすい交通手段の整備をしてほしい
- 八丁畷から市立病院・カルッツがわさきへ乗り換えのバスルートがほしい
- 小型バス等を導入し、路線バスの一方通行を解消して、高齢者が往復利用できる交通体系の整備をしてほしい
- 高齢化によりバス利用者が増加しているため、コミュニティバスを導入してほしい
- 4m未満の道路を無くし、消防車が通れる道路にしてほしい
- 市民の高齢化に備えた交通手段の充実と、子育て世代が住みやすいまちづくりを行ってほしい

### (まちの担い手)

- 民間活力を大いに活用した品格のある駅周辺のまちづくりに期待
- まちなかの点と点を繋ぎ、エリアを面的にブランディングしていくプレイヤー(地域の担い手)の必要性を感じるため
- 町会役員の高齢化や若年層の無関心により、町会の必要性が薄れつつある
- 町会運営の担い手が不足している
- 町内会の役員・担い手が不足しており、原因として70歳以上でも就労を続ける人が増え、地域と関わる時間を持ちにくくなっていることが考えられる
- 地域を活性化し、住民に町会活動に関心を持ってもらいたい

### <地区全体> (その他)

- ただ買い物や交通に便利なまちというだけでなく、音楽やスポーツも楽しめるまちであることが川崎の魅力だと思う
- 花壇や喫煙所の充実に加え、駅周辺への区役所(行政出張所)設置により行政機能の利便性向上を図ってほしい
- 少子高齢化対策により新しい世代が住みやすい環境を整えることが、よりよい川崎につながると考える
- 地域住民の利便性向上により地域活性化とまちの価値向上が期待できる。併せて、老朽建築物の更新により防火性・安全性が高まり、歴史的建築物の再生による保全にもつながる
- 歩きタバコ・自転車マナー、駅エスカレーター混雑対策など、住民のマナー向上もまちづくりに取り入れることを検討してほしい
- 中長期的には、川崎アプローチ線により南武線が浜川崎まで延伸し、将来は天空橋や都内への直通を期待する
- 外国人が多く住む地域が多いため、外国人にもわかりやすい対応が求められている

### <地区全体> (防災・防犯)

- 防災強化・風水害に対する安全なまちづくりを行ってほしい
- 川崎駅に降りてまず「花のないまち」と感じており、その背景には客引き行為や路上演奏などの具体的な事案があると考えられる
- 木造家屋は減少しており、延焼リスクは低下していると考えられるが、震災は近い将来発生するとされているため、人口の多い川崎市では、物資不足に加え、避難所の収容力不足が懸念される
- 電柱・電線の地下埋設を進めるとともに、裏道や人通りの少ない場所への防犯カメラ・防犯灯の増設を行い、防災・防犯対策の強化に向けた予算の拡充を求める
- 気候変動や地震、闇バイトの横行を踏まえ、防災・防犯を強化し、安心して暮らせるまちづくりに注力してほしい
- 自然災害で壊滅的な被害がいつ起きてもおかしくないため、防災機能の強化は生活者にとって絶対条件だと考える
- 予期せぬ災害の多発、路上や植え込みごみの増加も課題である
- 風水害・地震への防災対策と訓練を強化した安全なまちづくりや、日本らしさとグローバル性の両立による川崎のイメージ向上を期待する
- 防災機能と環境は関連性があり継続した取り組みが必要だと考える
- 海拔が低いので水による被害を少なくしてほしい
- 川崎駅は1日約39万人が利用する政令指定都市の玄関口で、交通網と産業・商業により賑わっている。一方、7区それぞれで特性に応じた犯罪傾向があるため、治安強化が必要である

### (環境)

- みどりや花をもっとふやしてほしい
- 現在の異常気象の原因とされる地球温暖化への対策として、環境配慮の視点は必要だと思う
- たばこの吸い殻やガムのポイ捨て防止に向けた啓発活動を実施し、川崎の玄関口にふさわしいきれいなまちづくりを行ってほしい
- 不法投棄が増加しており、外国人を含めたマナー啓発・教育の強化が必要である
- 街頭マナーを向上させ、歩きづらい仲見世通りを改善し、川崎の玄関口にふさわしい環境整備を行ってほしい
- 飲食店の呼び込みや禁煙エリアでの喫煙等が目立つことや、タバコの吸い殻・ゴミが道路上等に多く散乱していたり、排水溝にも多数捨てられている
- 清掃と巡回の強化が必要だと思う
- 川崎駅周辺のマナー向上は、川崎のイメージアップに寄与し、市外からの来訪者を呼び込む基盤となっていると思う
- 喫煙所について、マナーの悪さや煙の流入により近隣施設等への影響が生じているため、喫煙所の撤去または煙が漏れない仕組みへの再整備を検討してほしい